

■ 概況

5/9~5/15のNYMEX・WTIは、61.04~62.02ドルの範囲で推移した。

5月16日は、サウジ主導のアラブ連合軍が14日のサウジの東西パイプライン攻撃への報復としてイエメンのフーシ派を爆撃、また、前日、米国務省はイラン関連組織の攻撃が迫っているとして在イラク大使館から緊急要員を除く退去を指示するなど、中東を巡る緊張の高まりを受けて、3日続伸した。6月限終値は前日比0.85ドル高の62.87ドル。

週末17日は、先日の中東をめぐる地政学リスクの高まりの一方で、米中貿易交渉の先行き警戒感から、4日ぶりに反落した。6月限終値は前日比0.11ドル安の62.76ドル。

週明け20日は、イランをめぐる地政学リスクの高まりに加え、サウジのジェッダで開催された「OPECプラス」の合同閣僚監視委員会は、下期の協調減産について協議、結論は先送りされたものの、サウジのファリハ・エネルギー相から減産継続の方向が示唆されたことから、反発した。6月限終値は前週末比0.34ドル高の63.10ドル。

21日は、前日のトランプ大統領のイランは米国を脅かせば巨大な力に直面するとの武力行使も辞さないとの発言など中東をめぐる緊張の高まりと米中貿易摩擦など世界経済の先行き懸念が拮抗する形で、小幅続落した。6月限終値は前日比0.11ドル安の62.99ドル。

22日は、EIA週報で、米国原油在庫が前週比470万バレル増と予想外の積み増しになったことなどから、大幅続落した。この日から中心限月に繰り上がった7月限の終値は前日比1.71ドル安の61.42ドル。

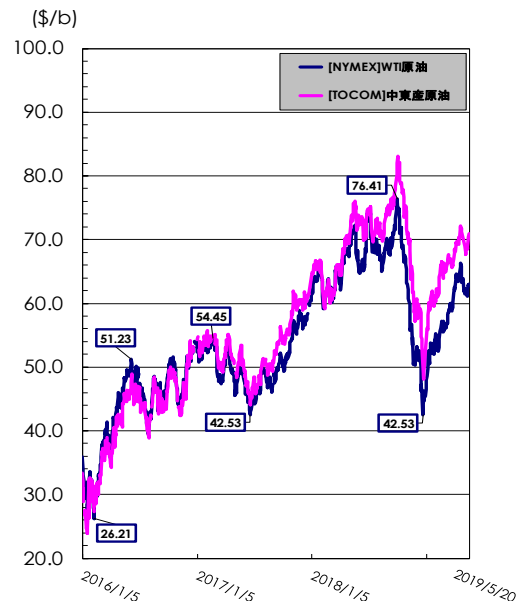
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は5月9日~15日の間69.10~70.60ドルの範囲で推移した。5月16日71.80ドル、17日72.10ドル、20日72.70ドル、21日71.80ドル、22日71.30ドルで推移した。

為替は5月9日~15日の間109.43~110.01円の範囲で推移した。5月16日109.51円、17日110.00円、20日110.17円、21日110.17円、22日110.53円で推移した。

財務省が5月22日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、48,596円/klで、前旬比476円高、ドル建てでは69.26ドルで前旬比0.40ドル高。為替レートは1ドル/111.54円だった。また、同日発表の貿易統計（速報・月間）によると、4月の原油輸入平均CIF価格は、48,078円/klで、前月比2,260円高、ドル建てでは68.78ドルで前月比3.26ドル高。為替レートは1ドル/111.13円だった。

そのような中で、5月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は同1円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンと軽油は13週ぶりの値下がり、灯油は13週連続の値上がりだった。この週（5月第3週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き上げとなった。

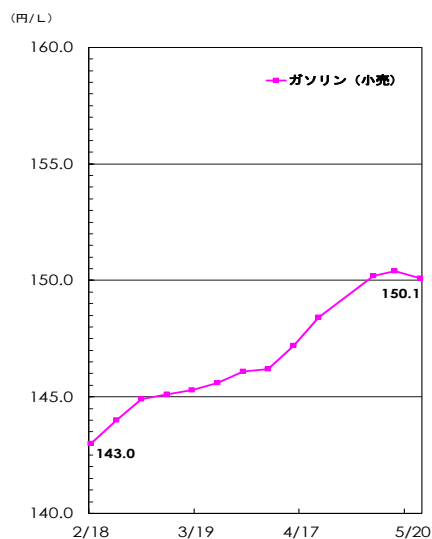
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/12 ~ 5/18	3,126 ▼ -267	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.8 ▼ -6.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/18	13,910 ▼ -201	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/20	70.97 ▲ 2.26	▼ -4.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/20	63.10 ▲ 2.06	▼ -9.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	69.26 ▲ 0.40	▲ 3.02
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	48,596 ▲ 476	▲ 4,329
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.54 ▼ -0.45	▼ -5.30
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/20	111.17 ▼ -0.43	▲ 0.92



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/12 ~ 5/18	858 ▼ -1.6	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	808 ▼ -7.5	▼ -	
	輸出	"	55 ▲ 36	▲ -	
	在庫	5/18	1,569 ▼ -6	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/14 ~ 5/20	63.1 ▼ -2.0	▼ -4.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/14 ~ 5/20	61.6 ▲ 0.4	▼ -5.3
		(TOCOM/中部)	5/20	63.9 ▲ 1.4	▼ -3.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/20	150.1 ▼ -0.3	▲ 1.0	

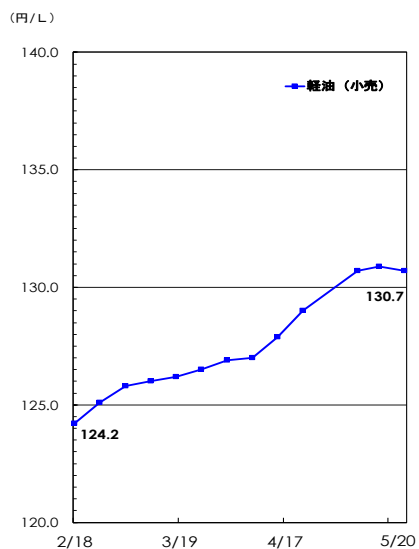
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

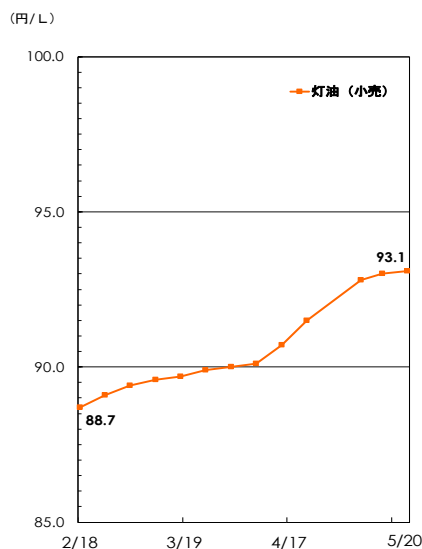
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/12 ~ 5/18	758 ▲ 24	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	653 ▲ 131	▲ -	
	輸出	"	147 ▼ -16	▲ -	
	在庫	5/18	1,479 ▼ -42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/14 ~ 5/20	66.7 ▼ -1.6	▼ -1.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/14 ~ 5/20	67.8 ▼ -2.0	▲ 0.4
		(TOCOM/中部)	5/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/20	130.7 ▼ -0.2	▲ 3.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/12 ~ 5/18	190 ▼ -3	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	99 ▼ -26	▼ -	
	輸出	"	24 ▲ 24	▲ -	
	在庫	5/18	1,302 ▲ 67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/14 ~ 5/20	66.1 ▼ -1.9	▼ -1.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/14 ~ 5/20	64.2 ▲ 0.3	▼ -3.3
		(TOCOM/中部)	5/20	65.7 ▲ 0.3	▼ -1.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/20	93.1 ▲ 0.1	▲ 2.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月22日のNYMEX市場WTI原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が前週比470万バレル増と予想(同60万バレル減)外の積み増しで、1年10ヶ月ぶりの高水準となったこと、中国通信機器大手ファーウェイとの取引停止が広がるなど米中貿易摩擦の長期化が懸念されることから、大幅続落した。この日から中心限月に繰り上がった7月限の終値は前日比1.71ドル安の61.42ドル、8月限の終値は前日比1.71ドル安の61.50ドル。

EIAによると、5月20日時点のガソリンの小売価格は、前

週比1.4セント値下がり1ガロン2.852ドル(83.7円/ℓ)、ディーゼルは同0.3セント値上り3.163ドル(92.8円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年5月12日～5月18日に休止したトッパー能力は44.4万バレル/日で、前週に対して16.4万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は312.6万klと、前週に比べ26.7万kl減少。前年に対しては9.4万klの増加。トッパー稼働率は79.8%と前週に対して6.8ポイントの減少、前年に対しては2.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.9%減、ジェット/6.6%減、灯油/1.5%減、軽油/3.2%増、A重油/19.7%増、C重油/0.2%減。今週のC重油の輸入は4.5万kl(前週比4.5万kl増)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比1.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は80.8万kl(対前週8.5%減)と前週比で2週連続で減少となり、20週連続で100万klを下回った。ジェット9.9万kl(対前週9.1%増)、灯油9.9万kl(対前週20.3%減)、軽油

65.3万kl(対前週25.1%増)、A重油16.6万kl(対前週4.1%減)、C重油20.9万kl(対前週25.1%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/12 ~ 5/18)	前週 (5/5 ~ 5/11)	前週比	
ガソリン	808	883	▼ -75	(-8%)
ジェット燃料	99	91	▲ 8	(9%)
灯油	99	125	▼ -26	(-21%)
軽油	653	522	▲ 131	(25%)
A重油	166	173	▼ -7	(-4%)
C重油	209	167	▲ 42	(25%)
合計	2,034	1,961	▲ 73	(4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月18日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは156.9万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては20.9万kl少ない。

灯油は130.2万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては15.7万kl少ない。

軽油は147.9万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては7.4万kl少ない。

A重油は83.3万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては4.6万kl多い。

C重油は197.6万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては3.1万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (5/18)	前週 (5/11)	前週比	
ガソリン	1,569	1,575	▼ -6	(-0%)
ジェット燃料	885	922	▼ -37	(-4%)
灯油	1,302	1,235	▲ 67	(5%)
軽油	1,479	1,521	▼ -42	(-3%)
A重油	833	799	▲ 34	(4%)
C重油	1,976	1,961	▲ 15	(1%)
合計	8,044	8,013	▲ 31	(0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月14日～20日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、5月14日～20日の間、ガソリン116～117円台で値下がり後値を戻し、軽油66～67円台で値下がり後横ばい、灯油66円台で値下がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン118円台で値下がり後値を戻し、軽油68～69円台で値下がり後横ばい、灯

油64～65円台で出入り激しく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114～116円台で大きく値上がり、軽油67～68円台で値下がり、灯油63～65円台で大きく値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社0.5円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月14日～20日の製品スポット市況は、先物のガソリンと灯油を除く全油種・全取引で、5月7日～13日平均と比べ値下がりした。

5月第4週(5/23～5/29)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5/14～5/20千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油は1.9円の値下がり、軽油は1.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は2.0円の値下がりだった。

5月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (5/14～5/20)	前週 (5/7～5/13)	前週比
レギュラー	63.1	65.1	▼ -2.0
灯油	66.1	68.0	▼ -1.9
軽油	66.7	68.3	▼ -1.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (5/14～5/20)	前週 (5/7～5/13)	前週比
レギュラー	61.6	61.2	▲ 0.4
灯油	64.2	63.9	▲ 0.3
軽油	67.8	69.8	▼ -2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/14～5/20実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.0	▲ 0.4	▼ -0.8
灯油	▼ -1.9	▲ 0.3	▼ -0.8
軽油	▼ -1.6	▼ -2.0	▼ -1.8
A重油	▼ -1.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の150.1円、軽油も同0.2円安の130.7円、灯油は18%ベースで同1円高の167.5円(1%ベースでは同0.1円高の93.1円)だった。ガソリンと軽油は13週ぶりの値下がり、灯油は13週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが9道府県、横ばいが5県、値下がりが33道府県だった。全国最安値は徳島県の145.6円(前週比0.2円安)、次が埼玉県の146.1円(同0.4円安)、最高値は長崎県の161.3円(同2.1円高)であった。最も値上がりしたのも2.1円高の長崎県(161.3円)、横ばいは沖縄県等5県、最も値下がりしたのは2.4円安の山梨県(151.8円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の引き下げとなった。

今週は、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き上げとなった。次週(5月27日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/20)	前週 (5/13)	前週比	直近高値
レギュラー	150.1	150.4	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	93.1	93.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	130.7	130.9	▼ -0.2	08/8/4 167.4

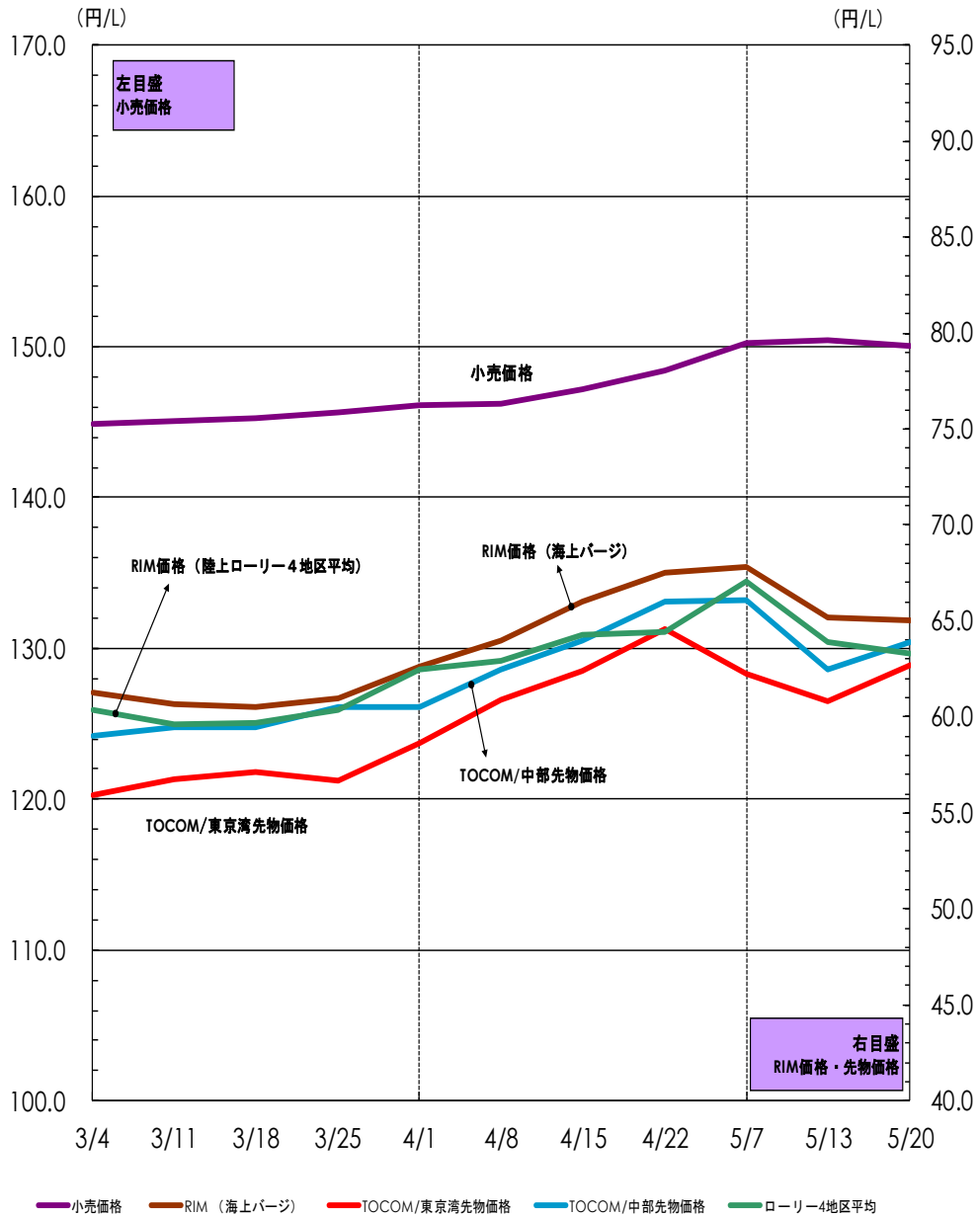
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/3/4 ~ 2019/5/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第8号)の公表は、5/31(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。